

■釧路公立大（2020年2部リーグ優勝）

冷涼な気候の釧路も、今夏はかつてない猛暑に見舞われた。7月31日には最高気温が観測史上2位、7月としては新記録となる31.7度を記録した。釧路公立大を訪ねた8月6日も、最高気温は平年より6.9度高い28.5度まで上がった。

練習は暑さ対策も兼ねて午後3時から、構内のグラウンドで始まった。今年の部員は8人の新入生を含めて選手22人とスタッフ10人。選手は去年より5人増えた。チームカラーの黒の練習着と金色のヘルメットが夏日に光る。泉川深太主将（4年、岩手・不來方高）が「テスト休み明けの練習再開初日。けがをしないようにしっかりと練習しよう」と声をかけてウオームアップが始まった。

釧路公立大は昨年の2部リーグで、一騎打ちとなった道科学大を16-7で下し4年ぶりに優勝した。1部が変則日程となったことなどから入れ替え戦は行われなかったが、2021年の道学生選手権（秋季リーグ）を前に、1部校の札幌学院大が部員不足で不参加を決めたため、特例で釧路公立大の1部昇格が決まった。大学のコロナ対策で中断していた全体練習を6月第2週から再開。8月7日からは週5回に練習日を増やし、1部リーグに挑むチームづくりが急ピッチだ。

タックルの練習が始まった。選手が2組に分かれ、RB役を交代でタックルする。試合では先発選手のほぼ全員が攻守兼任になる見込み。バックスの選手もタックル練習は欠かせない。WRとDB兼務の泉川主将のハードタックルが決まった。「クレインズ・タックルだ」と声が飛ぶ。2分半で攻守を交代しながら4セット、タックル練習が黙々と続いた。1時間のポジション別練習ではOLがパスプロテクションとダブルチームブロックを繰り返した。

猛暑の練習はスタッフも忙しい。給水は5分おき。用意した水のタンクが練習の途中でからになり、急ぎょ水くみに走った。「氷嚢を用意しています。おかしい様子の選手がいたら、すぐに休ませます」と野田侑里マネージャー（4年）がグラウンドに目を光らせた。

9月12日に開幕する1部リーグで、釧路公立大の初戦の相手は昨年の覇者の北海学園大。厳しい戦いが続きそうだが、泉川主将は「公式戦で勝てない時期が続き、去年はようやく勝つことができた。課題も多いが、1部リーグに向けて体力アップに努めてきた。やるからには全道制覇を目指したい」と大きな目標を掲げた。



タックル練習に励む釧路公立大の選手たち